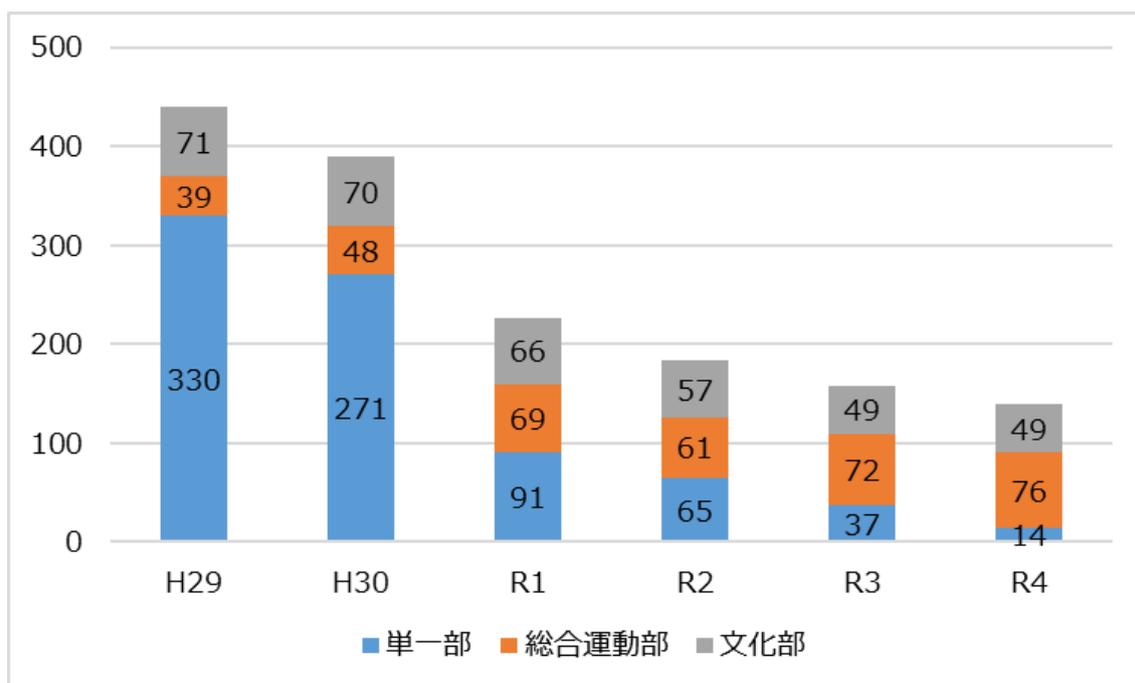


小学校部活動地域移行の検証について

1. 小学校部活動数の推移



単一運動部活動の内訳

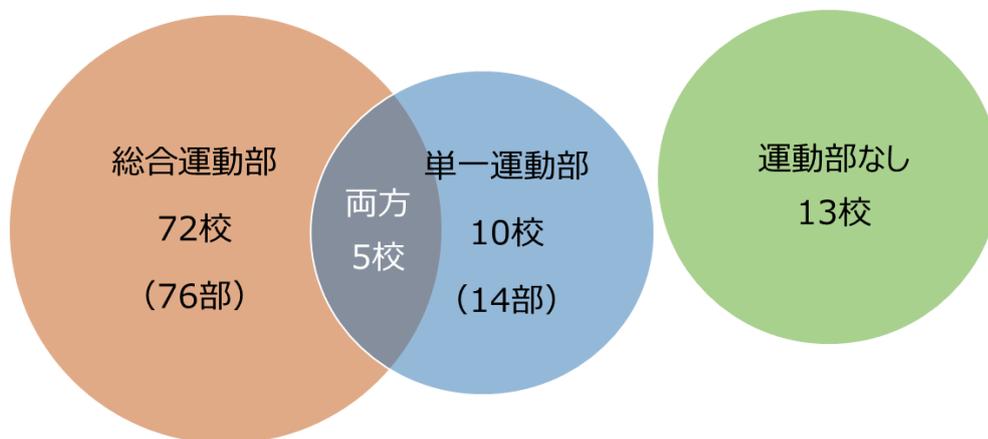
サッカー 8部 ミニバスケットボール 5部 バドミントン 1部 計 14部

文化部活動の内訳

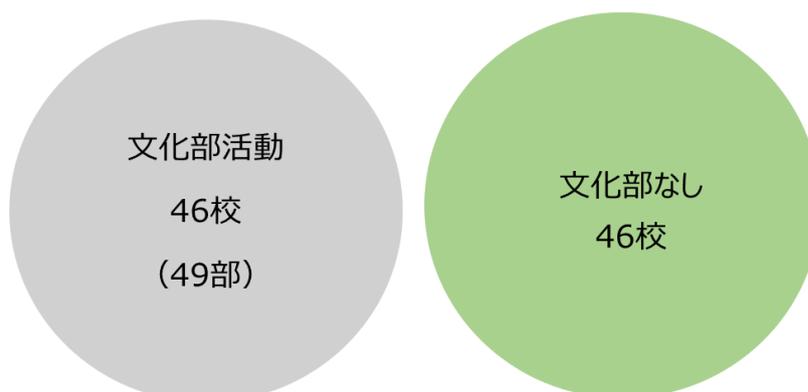
音楽 25部 器楽 11部 吹奏楽 4部 合唱 4部 緑の少年団 2部
金管バンド 1部 太鼓 1部 城東もりあげ隊 1部 計 49部

2. 小学校部活動の現状（令和4年度）

①運動部活動



②文化部活動



3. 部活動アンケート（小学校からの回答）

3-1 部活動の地域移行に伴い、子どもの様子について気づいたことを教えてください。

【良かったところ】

- ・それぞれが活動したいレベルのチームに参加したり、部活動にない種目のチームに行くことができている。
- ・子供たちの帰宅時間も早くなり、家庭でそれぞれ有意義に生活している。
- ・他校の子どもたちとの交流が増えた。
- ・地域スポーツなので、他の学校の子どもの交流も増え、友達も増えた。
- ・複数の競技に参加する子どももいて、スポーツに親しむ様子が見られるようになった。
- ・地域の方々とのつながりが良い影響を与えていると思う。
- ・地域へ移行しても子どもたちはのびのびとスポーツに勤しんでいる。学校外の大人と触れ合うのも子どもたちにとっては良い経験になる。

【課題】

- ・あいさつや礼儀、学校生活の態度がやや横着になっている面がみられる。
- ・目標に向かって努力する態度の育成のための機会の減少、質の低下。
- ・人間関係がよりよく構築できない児童の増加（教師と子ども、子ども同士）。
- ・クラブに参加できる児童と参加していない児童とでは体力面で二極化が進んだ。
- ・気軽に運動に触れる機会が減少し、運動離れや二極化が進んでいる感は否めない。
- ・教師との関係が希薄になった。
- ・社会体育がどうしても終わる時間が遅く、疲れている児童もみられる。「部活動の先生」という存在がなくなることで、学級中心のまとまりになっていると感じる。

（参考：全国体力テスト）

○実技テスト調査（8項目）

		テスト項目						
小学校 5年生	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20mシャトルラン※1	50m走	立ち幅 とび	ソフトボール 投げ
中学校 2年生					20mシャトルランか 持久走※2の選択			ハンドボール 投げ

※1 往復持久走（一定の間隔で鳴る電子音に従って20mを走り、折り返し回数を測定）

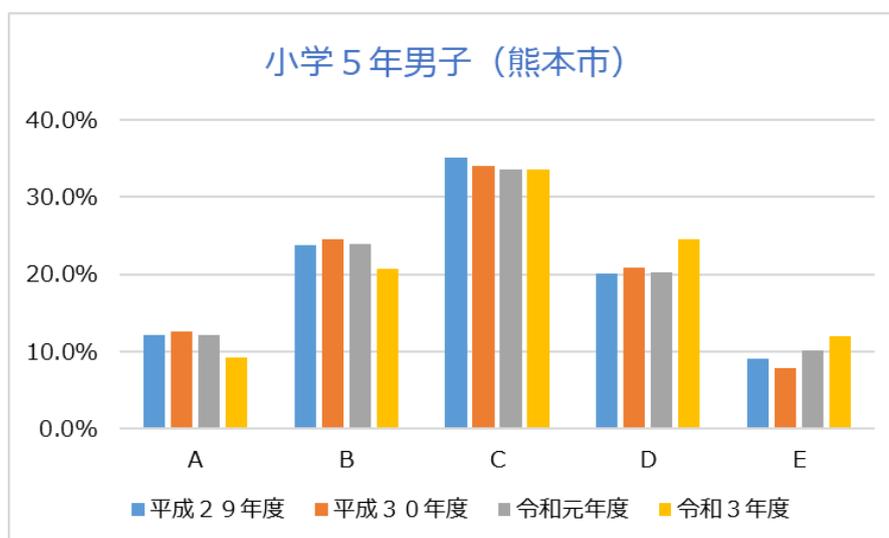
※2 男子は1500m、女子は1000m

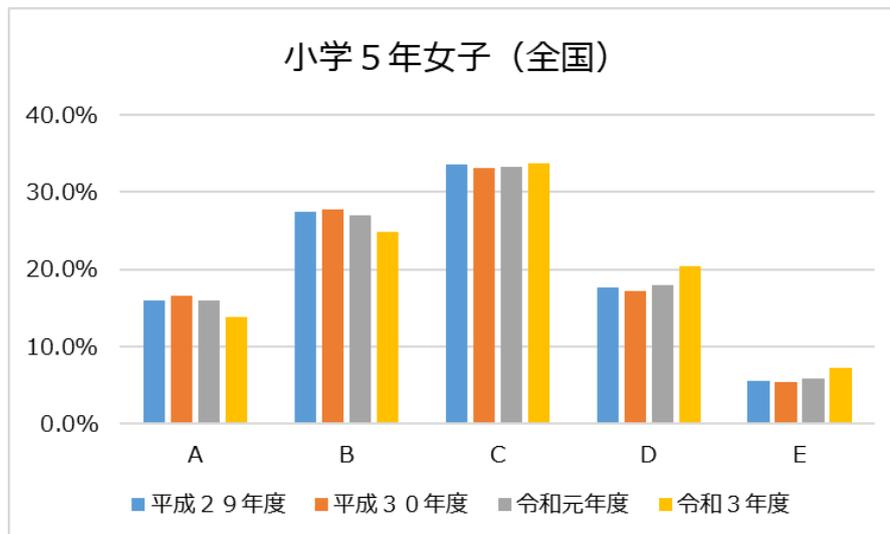
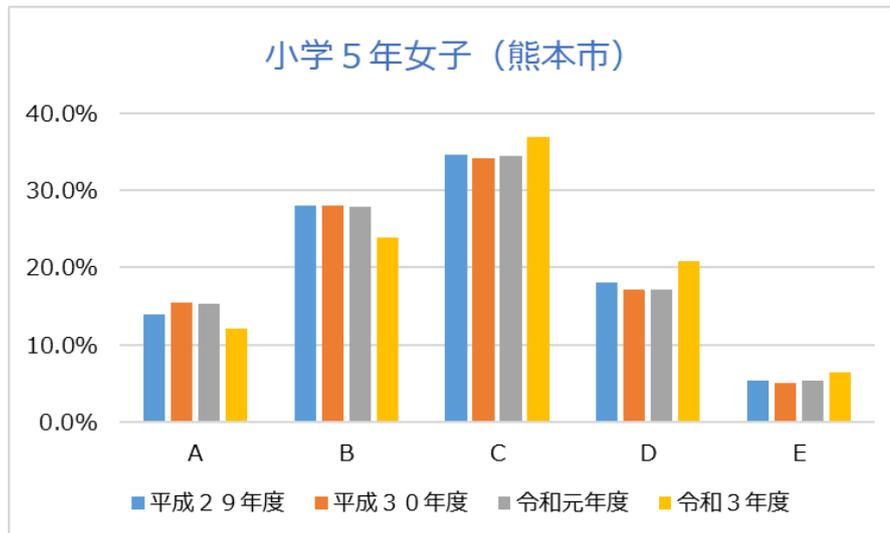
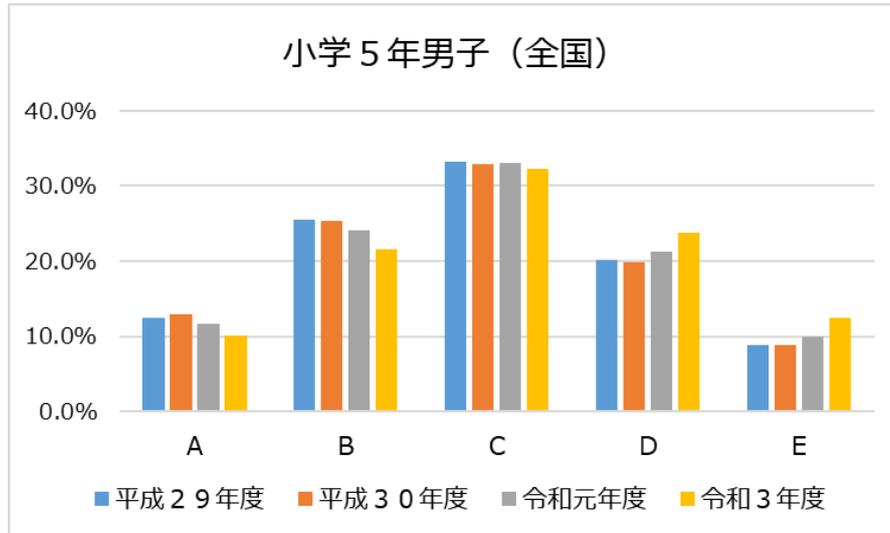
評価基準表

	A	B	C	D	E
小学校5年生	65点以上	58～64点	50～57点	42～49点	41点以下
中学校2年生	57点以上	47～56点	37～46点	27～36点	26点以下

※各実技テストの結果を10点満点で換算し、合計80点満点で上記基準表に基づき、A～Eの評価を判定

全国体力テストの調査結果によると、熊本市の男女ともにA・Bが減少、D・Eが増加傾向にあり、二極化が進んでいる。全国でも同様の傾向がみられ、新型コロナウイルスの影響が大きな要因と考えられる。





3-2部活動を地域へ移行を検討するにあたって、課題に感じられたことを教えてください。

①指導者不足

- ・音楽部の地域への移行は指導者確保の面を中心に難しい。
- ・一旦、廃部としたが、保護者からクラブを立ち上げたいとの相談があり、地域スポーツクラブへの加入を提案した。指導者の確保がなかなか出来なかったが、それ以外はスムーズに行われた。
- ・もともとあった部活動をそのまま地域スポーツで指導してもらえることとなったが、種目によっては指導者の確保が難しかった。
- ・最終的には見つかったが、ギリギリまで指導者の確保ができず、廃部となる可能性があった部活がある。
- ・指導者がなかなか見つからないことが1番の課題である。
- ・指導者の確保が最大の課題。継続的に適切な運動機会が保障されるための複数の指導者確保が必須であり、本校では一部は課題が残った。
- ・指導者の確保は難しい問題で、実態としては保護者が指導を担当するケースが多いように思う。そうすると活動の時間を工夫しないといけない。
- ・文化部において、経験者がおらず、指導者の確保ができなかったため、継続ができなかった。
- ・地域人材の確保が難しい。日本の社会が17時に仕事が終われる社会ではない。指導者の都合になると、スタート時間が遅くなる。遅くなると、開始までの子どもの動きが不安で運動しない子どもが多くなっている状況がある。
- ・部活動と並行して、一時保護者立ち上げのクラブ的なものが作られたが、1年しか続かなかった。指導者の確保が難しく、継続は厳しい印象であった。

②活動する場所等の確保

- ・吹奏楽の練習場所や練習時間の確保への協力、楽器の保管場所について試行錯誤した。
- ・文化部は、校舎を開放できなかった。
- ・水泳部があり、社会体育への移行にあたり学校のプールが使用できなくなるため、社会体育への移行にするか部活動を残していくかで結論がでなかった。
- ・練習場所について、運動部活動は外もしくは体育館としているが、ブラスバンド部については校舎内なのでどうしても見守りが必要になる。
- ・文化部活動（吹奏楽部）については、地域に移行した場合、指導者、楽器の保管場所、練習場所について、スムーズに解決することが困難な課題となっている。
- ・用具倉庫が敷地内に残しており、安全面について指導者や代表者と連携しながら連携していく必要がある。
- ・施設管理の面で、難しい所がある。駐車場の使い方やゴールの移動など学校とは考え方の違う部分もある。

③責任の所在

- ・移行した運動部活動の体育館のカギの管理が難しい。他校と違ったスタイルで夕方に体育館を貸し出しているため責任の所在があいまい。
- ・部活動で自分たちが使う場や物は職員と児童で環境整備を行っていたが、それがなくなり、外部は使うだけであることから施設や環境整備面に課題がある。

④保護者の負担

- ・送迎の課題（他校区へのクラブチームの場合）

⑤地域との調整

- ・グラウンドや体育館の休日使用について、学校が頻繁に調整をしている。
- ・クラブチームの代表者が学校職員ではなくなったので、連絡調整の行き違いが起こるようになった。
- ・地域との連絡調整は、地域連携を深めるうえで有効に働いたが、渉外担当の教頭の負担が大きい。

⑥その他

- ・社会体育と部活動の違いが保護者に伝わりにくかった。
- ・教職員が指導者として希望した場合の、サービス上の課題がある。

4. 小学校の地域移行に伴う課題（スポーツ振興課）

①指導者不足

- ・保護者や学校等から指導者の紹介の相談依頼が多いが、本課事業のスポーツリーダーバンク登録者は長期の指導に対応できないことが多い。また、長期の指導に対応できる指導者がいても、指導の時間帯が放課後であれば、対応できないことも多い。部活動指導員や外部コーチの成り手が足りないのと同じ状況。
- ・指導経験がなくても競技経験があるだけで依頼される指導者が、指導者として本当に適しているかどうか不安。（無資格者や研修の未受講等）
- ・指導費が少ないことから、成り手がいない。生計が立てられないことでの受け手不足。

②活動する場所等の確保

- ・夜間体育での利用は、総合型 SC や体協の活動で年間優先予約してあるので、単独の社会体育クラブが定期的に活動できる曜日があまりない。
- ・放課後の時間帯において、外部への使用許可は、学校長の専決によるので、複数の社会体育クラブチームが申請してきた場合、使用許可団体対象の優先順位等の基準がないため学校長の判断が難しくなる。
- ・社会体育に移行したら、部活動ではないという理由で、学校が部室や用具を使わせてくれなくなる。

③責任の所在

- ・体協や総合型 SC で受けた場合、事故等が起きた場合の責任はどこにあるのか？体協

や総合型 SC の責任問題に発展するのであれば受けることはできない。

・教育委員会に社会体育について相談しても、教育委員会の所管外ということで相手にしてくれない。

④保護者の負担

・子どもにスポーツをさせたいが、社会体育に移行することで、これまでのように放課後や自分の学校でできないなら、親の仕事の都合上、子どもの送迎等はできないため、子どもにスポーツをさせることができない。

・部活動がなくなったことで、その種目を続けたい子どものために社会体育クラブを作ったが、総合型 SC や体協ではないことで使用料の減免にならない。社会体育クラブになり、部活動よりも経費（指導者費、用具費等）がかかることで保護者の負担が増えるにもかかわらず、さらに使用料がかかると負担増になる。使用料は減免にしてほしい。

⑤その他

・社会体育へ移行したクラブに対して、学校長の異動に伴う方針転換等により、学校の対応が変わる。

・H29～30年度の2年間で、学校ごとに部活動検討委員会を開催するようになっていたが、地域や保護者を交えての検討会議をせずに、もしくは地域等に相談なく、学校側（保護者）の意向で社会体育移行が決まるなど、学校ごとに会議の仕方が違うといった苦情が多かった。

・部活動新指針（H31完全実施）の趣旨や内容について、学校も含めて保護者や地域に周知できていない。

・総合型 SC や体協が受け皿となる場合は、大半が競技志向（勝利主義）ではなく楽しむことを目的としていることが多い。これまでの部活動での指導方針や運営方法が違うことで保護者からのクレームが多くなり、クラブ運営側と保護者によるトラブルが生じているところも少なくない。

・小学生への指導経験が未熟なことから、指導者がお守り役のような認識を受けることで子どもたちや保護者が言うことを聞かない。